



財団法人 成長科学協会

理事長 鎮目 和夫

もうすぐ夏休みになります。子どもさんのおられるご家庭では、何か特別な行事をお考えになっておいででしょうか。今回のテーマは「食」が中心でございます。お子さんの食べ物に、人一倍気を使う季節、本日のお話を参考にして楽しい食卓を囲んでいただけたらと思います。

さて、今回で公開シンポジウムも4回目となり、昭和52年協会設立以来、人の身体の成長に関する研究や研究助成、成長障害者の診断・治療に関する指導、協力等を行う活動のみを行って参りましたが、約2年前より身体のみならず次代を担う日本の子どもたちの心の発達の重要性に思いをいたし、協会内に「心の発達研究委員会」を設置、活動を開始し、子どもの心の発達の問題について、幅広い角度から考え、討論を重ねて参りました。これまで、皆様の熱い声援に支えられ活動を展開できましたことに、心から感謝申し上げます。また今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



心の発達研究委員会

委員長 岡 宏子

“育ちゆく子どもたちに人間としての可能性を十分に展開させたい”という願いのもとにスタートしたこの「心の発達研究委員会」ですが、公開シンポジウム、研究者集会と会を重ねるごとに、子どもの発達の現状とその問題が多岐にわたること、又その深さに心が揺り動かされます。「子どもの発達はおかしいのか」「父親と子ども」「働く母親と子ども」等の子どもの発達をめぐる問題に続いて、今回は「食」の問題をとりあげました。事前に東北から沖縄まで、全国の中から選んだ何地区かに行った調査結果からの問題提起に続き、食生活・生態についての専門家たちの具体的なお提言と討論をご期待下さい。

「あなたは、今日何を食べましたか？」このフォーラムの開催にあたって、事前に東北から九州など、全国の何地区かに実施した調査の中、こんな質問に対して、何とその答えは様々だったでしょう。豊かな食事どころか、かたよった貧しい食生活もうかがわれたのです。「食物」——それは、子どもの発達に大きな影響を与える環境的な力のひとつです。現代の食生活の中にみられる問題と、それが子どもの心と身体の発達に及ぼす影響について、専門家たちはそろって警鐘を鳴らしています。

20世紀の後半、日本の社会・文化は、人々の生活は、大きな変容をとげました。21世紀を目の前にして、我々は「豊かさ」の中にどっぷりとつかっているととも言われます。あふれんばかりのもの、精巧な道具、豊かな食べ物に囲まれていると言われる私達の生活環境は、本当に子どもの心と身体に豊かさをもたらしているのでしょうか。拒食、孤食等を含めての現代の子どもの食生態に関する各専門家からの問題提起と討論により徹底的に追求してみたいと思います。

心の発達研究委員会

委員長 岡 宏子(大学セミナー・ハウス館長、聖心女子大名誉教授)

委員 東 洋(白百合女子大児童文化学科長、東大名誉教授)

〃 小林 登(国立小児病院長、東大名誉教授)

〃 原ひろ子(お茶の水女子大女性文化研究センター教授)

〃 大野澄子(聖心女子専門学校保育科長、日赤医療センター)

〃 丹羽洋子(育児文化研究所長)

〃 森 玲子(東京都立川高等保育学院)

顧問 鎮目和夫(成長科学協会理事長、東京女子医大名誉教授)

プログラム

テーマ 子どもの発達と現代環境：

「これでよいのか食生活」

司会 岡 宏子

13:00～14:45 開会 あいさつ
プレゼンテーション
演者からの提言

鎮目 和夫
岡 宏子
足立 己幸
菅原 明子
日比 逸郎

14:45～15:00 休 憩

15:00～16:20 ディスカッション
鎌倉・長谷幼稚園
の環境づくりから

横山 仁雄

演者紹介

岡 宏子(おか ひろこ)〈司会〉

(財)大学セミナー・ハウス館長。当研究委員会委員長。

専門は発達心理学。「心の発達」をとらえる視点の広さと分析の明確さには定評があり、その明快でわかり易い話にファン層が厚い。

足立 己幸(あだち みゆき)

女子栄養大学教授。

NHKのテレビ番組を通して、子どもたちの「孤食(こしょく)」の問題を最初に世に投げかけた。学校給食の問題にも意欲的にとりこんでいる2児の母。

菅原 明子(すがわら あきこ)

菅原食生態学研究所所長。

テレビや雑誌などでもおなじみ。子どもから大人までの食生活に関する幅広い疑問に答え、助言を与えている。5児の母。

日比 逸郎(ひび いつろう)

国立小児病院小児科医長。

専門は子どものホルモンの病気だが、肥満児や糖尿病児の食事指導がきっかけで、30年来全国の学校栄養士たちと交流し、子どもの食生活全般について勉強してきた。

横山 仁雄(よこやま きみお)

長谷幼稚園園長。

広大な自然に囲まれた鎌倉の幼稚園で、子どもの発想を生かしたユニークな環境づくりをし、園児との豊かな園生活を実践している。